

NEWS RELEASE

2026. 5. 20

2026年度 鉄道事業設備投資計画について

安全な鉄道サービスの提供等に資する総額 420 億円の設備投資を実施します

阪急電鉄では、2025年3月に阪急阪神ホールディングスが発表した「長期経営構想」に基づき、次の「鉄道事業設備投資の方針」に示す3つのテーマを軸とした設備投資計画を策定し、推進しております。

今年度は、当計画に基づき、鉄道事業において総額420億円の設備投資を実施します。

安全な鉄道サービスの提供を最優先とし、利便性の更なる向上と安心・快適な鉄道サービスの提供のための設備投資を一層推進してまいります。あわせて、脱炭素の取組や働きやすい職場環境の整備など、持続的な事業運営の推進にも取り組んでまいります。

なお、2026年度の設備投資計画の詳細は、別紙のとおりです。

鉄道事業設備投資の方針

① 安全な鉄道サービスの提供

- ホームの安全確保
- 踏切等の安全性向上
- 自然災害への対応

② 利便性の更なる向上と安心・快適な鉄道サービスの提供

- 新線・新駅・駅改良等の鉄道インフラ整備
- 車両新造・リニューアル等
- 阪急沿線アプリの機能向上

③ 持続的な事業運営の推進

- 脱炭素の取組の推進によるモーダルシフト
- 働きやすい職場環境の整備

以上

【添付資料】別紙 2026年度 鉄道事業設備投資計画の詳細について

【ニュースリリース配付先】青灯クラブ、近畿電鉄記者クラブ

2026年度 鉄道事業設備投資計画の詳細について

■ 当社鉄道事業設備投資実績および計画値 ※単位 億円

2022年度 (実績)	2023年度 (実績)	2024年度 (実績)	2025年度 (実績)	2026年度 (計画)
155	208	338	341	420

① 安全な鉄道サービスの提供

▶ ホームの安全確保

・ ホーム柵の整備

鉄道駅バリアフリー料金制度を活用し、全駅・全番線へのホーム柵設置（可動式または固定式）と全駅のバリアフリー化を目指しています。今般、ホーム柵については、ホーム保安度の早期の向上を実現するため、当初の整備計画から期間を5年短縮し、2035年度的全駅整備完了を目標に、より加速的に整備を推進することとしました。また、ホーム柵の整備に併せて、引き続きホームと車両の段差および隙間の解消を図ります。今年度は、新たに下記の10駅計22番線での供用開始を目指します。

▶ 可動式ホーム柵（7駅16番線）

園田駅③④、塚口駅①②、武庫之荘駅①②

豊中駅①②、雲雀丘花屋敷駅①②③④

桂駅①㉟、烏丸駅①②

▶ 固定式ホーム柵（3駅6番線）

上桂駅①②、松尾大社駅①②、嵐山駅①②



可動式ホーム柵（川西能勢口駅）

▶ 踏切等の安全性向上

・ 連続立体交差事業

淡路駅付近と摂津市駅付近の2か所では、それぞれの事業主体である大阪市（淡路駅付近）および大阪府（摂津市駅付近）とともに連続立体交差事業を進めています。鉄道を高架化し、踏切を除去することで、踏切待ちや踏切事故の解消による交通の円滑化や、線路により分断された市街地の一体化を図ります。

▶ 淡路駅付近（京都線・千里線）連続立体交差事業（事業延長：約7.1km）

（事業の主な経過）

1994年 都市計画決定

1997年 都市計画事業認可

2008年 鉄道工事着手



高架化工事中の淡路駅

▶ 摂津市駅付近（京都線）連続立体交差事業（事業延長：約 2.1km）

（事業の主な経過）

2017年 都市計画決定

2018年 都市計画事業認可

2026年 鉄道工事着手

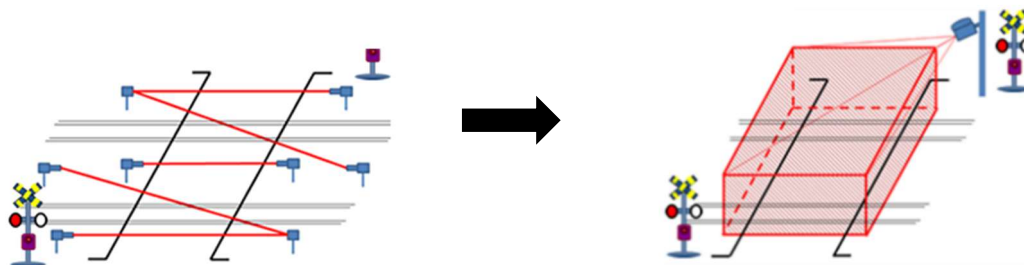


高架化後の摂津市駅のイメージ

・踏切道における障害物検知装置の性能向上

当社では自動車が通行可能なすべての踏切道に障害物検知装置を設置しています。この装置の検知性能を向上させ、踏切の渡り遅れや転倒による事故を減らすために、従来の「線」ではなく「空間」で物体検知が可能な「改良型 3 次元レーザレーダ式障害物検知装置」への置き換えを、今年度は新たに 13 踏切で実施する予定です。

（2026 年 3 月末現在 32 踏切に設置済）



線検知（左）と空間検知（右）のイメージ

・軌道改良

運転保安度および乗り心地の向上を図るため、橋梁・分岐部のまくらぎの更新や、レールの腐食を防ぐための加工を実施することで耐久性の向上を進めています。

▶ 自然災害への対応

・法面補強

大雨の土砂災害対策として、線路脇の斜面や線路を支える盛土が崩壊することによる電車の運転見合わせを防ぐため、法面の補強工事を 3 か所で行います。

・耐震補強

大規模地震の発生時に構造物が大きく壊れないようにするため、高架橋の柱の四方、あるいは単面に鋼板で補強する工事を行い耐震性を高めています。今年度は 4 か所で工事を行います。



高架橋柱耐震補強の状況

・避難看板の設置

大きな地震が発生した際、駅間で停車した電車からの避難誘導が必要となる場合があります。避難を誘導する社員の目安になることと、社員が誘導できない状況でもお客様が避難する方向がわかるようにするため、駅間の架線柱などに、駅や踏切までの距離を示す避難看板の設置を進めており、今年度末までに全線に整備する予定です。また、南海トラフ地震を想定した津波浸水予測区域においては、そこに津波が来る可能性を併記します。



避難看板

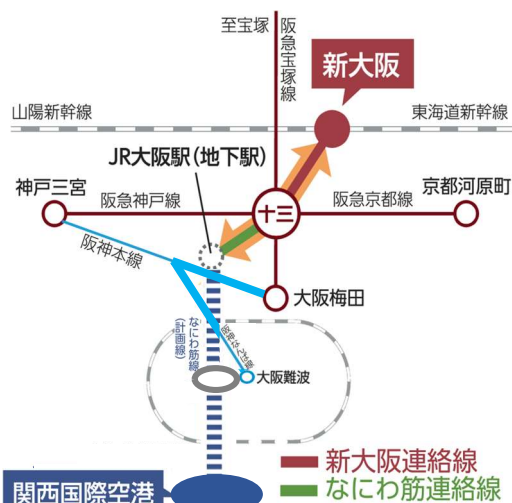
② 利便性の更なる向上と安心・快適な鉄道サービスの提供

➤ 新線・新駅・駅改良等の鉄道インフラ整備

鉄道ネットワークの拡大や当社駅の利用圏域拡大を通じて沿線価値を向上させるため、新線・新駅の整備や駅改良工事を含む大規模プロジェクトの検討・具体化を進めています。あわせて、沿線自治体と連携し、駅前の再整備や高架下の利活用等について検討・協議を行っています。

・なにわ筋連絡線、新大阪連絡線

国土軸と当社沿線をつなぐ重要な路線と位置付けています。新大阪駅周辺は都市再生緊急整備地域に指定されており、今後の開発の促進が期待されます。新大阪駅のまちづくりの進捗と歩調を合わせて、引き続き整備計画の具体化に向けて注力していきます。



新大阪連絡線（整備区間：十三～新大阪駅間）
 なにわ筋連絡線（整備区間：十三～JR大阪駅間）

・武庫川新駅

武庫之荘駅～西宮北口駅間は、神戸線において最も長い駅間（約3.3km）であり、一定の人口集積がありながら、武庫川により市境が設けられており、行政の政策や居住者の交流が分断されてきました。武庫川橋梁上に新駅を整備することにより駅勢圏の拡大を図るとともに、周辺整備や河川敷緑地などの利活用による新しいまちづくりを西宮市・尼崎市と一体で進めることにより、住みやすく活力に満ちた沿線づくりに貢献します。

（事業の主な経過及び今後の予定）

2025年度 事業着手

2026年度 工事着手予定

2031年度末 開業目標

【ご参考】2025年4月10日付 リリース

『阪急神戸線 武庫之荘駅～西宮北口駅間において2031年度末を開業目標として新駅設置事業に着手いたしました。新駅周辺のまちづくりや公共交通ネットワークの整備など相互に協力して事業を進めてまいります』

<https://www.hankyu-hanshin.co.jp/release/docs/2bd8373ec75cdb449ed741840123863a11ea25bf.pdf>



新駅設置場所となる武庫川橋梁付近

・ 駅改良工事

大阪梅田駅については、「大阪梅田駅の将来のありたい姿」を策定し、その実現のためにリニューアル工事を行います。まずは、3階コンコース・ホームから着手します。

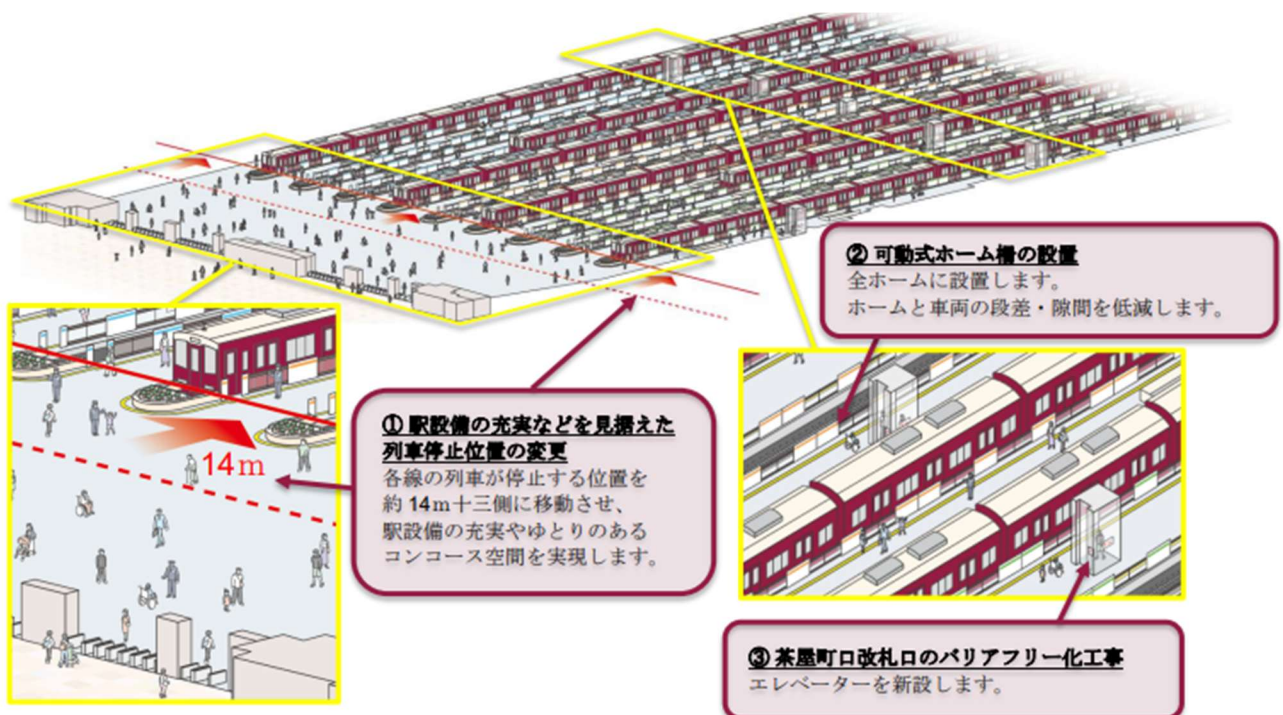
【ご参考】2025年11月26日付 リリース

『すべてのお客様にとって居心地の良い駅、梅田周辺のまちとの回遊性を高めた利便性の高い駅、阪急らしさを受け継ぎながらも新しい感動を体験していただける駅へ

「梅田ビジョン」にもとづく「大阪梅田駅の将来のありたい姿」を策定 「芝田1丁目計画」に向けて2026年1月よりリニューアル工事に着手』

[https://www.hankyu-](https://www.hankyu-hanshin.co.jp/release/docs/067bfb0d30580ea18328a1102890d56303b4fe89.pdf)

[hanshin.co.jp/release/docs/067bfb0d30580ea18328a1102890d56303b4fe89.pdf](https://www.hankyu-hanshin.co.jp/release/docs/067bfb0d30580ea18328a1102890d56303b4fe89.pdf)



大阪梅田駅3階のリニューアル工事のイメージ

➤ 車両新造・リニューアル等

・ 新型車両の新造

「安心と快適、そして環境に配慮した新しい阪急スタイル」をコンセプトに2024年7月から運行を開始した2300系車両、および2025年2月に運行を開始した2000系車両の増備を進めます。今年度は2000系車両5編成の導入を計画しています。



2000系（左）および2300系（右）

- ・車両リニューアル

車両は導入後概ね 25 年程度を目安に大規模リニューアル工事を実施しており、今年度は、新たに 9300 系車両 3 編成のリニューアル工事を実施します。

制御装置を新型車両と同仕様の高効率な装置に取り替え省エネルギー性能を向上させるほか、車いすやベビーカーをご利用のお客様でも安心してご乗車いただけるよう、車いすスペースを拡大させるなどの改良工事を実施するとともに、車両に衝突・脱線などの異常挙動を検知した際に、近隣を走行する電車に危険を知らせる信号を自動発報する機能を付加するなど、安全性の向上を図ります。



改良工事後の車いすスペース

- ・車内防犯カメラ・前方カメラの設置

2027 年度末までにすべての車両に防犯カメラを設置するべく、今年度末時点では全車両のうち約 80% への設置を目指します。カメラは通信機能を有しており、車内の状況を映像で素早く把握できるほか、犯罪や迷惑行為の抑制にもつながります。さらに、前方カメラの設置も進めており、事故や自然災害が発生した際の迅速な状況把握と対応を目指します。



防犯カメラ



前方カメラ

- 阪急沿線アプリの機能向上

スマートフォンアプリ「阪急沿線アプリ」では、阪急電鉄に加え能勢電鉄、阪急バス、阪急タクシーなどの交通情報と阪急沿線のおでかけ情報を提供しています。阪急阪神ホールディングスが提供する会員サービス「HH Cross ID*」と連携しながら、鉄道をご利用いただく皆様にとって便利なアプリを目指します。沿線のお客様の「ゆとり」ある暮らしに寄り添い、気軽に、便利に沿線をおでかけしたくなる魅力的な情報発信を実現できる機能強化に、継続的に取り組みます。

*HH Cross ID は、阪急電鉄だけでなく、阪急阪神ホールディングスグループが提供する様々なサービスを、ひとつの ID で便利にご利用いただける会員サービスです。

③ 持続的な事業運営の推進

➤ 脱炭素の取組の推進によるモーダルシフト

2025年4月から、鉄道用電力を実質的に再エネ電力100%とする全線カーボンニュートラル運行を開始しています。さらなる環境負荷低減に向け、省エネ車両、LED照明、電車の余剰電力を活かす回生電力貯蔵装置をはじめとする省エネ設備や、駅舎や工場の屋根の太陽光パネルなどの創エネに資する設備の導入を進めます。これらの取組とあわせて、鉄道の環境優位性に対する社会的な理解を広げることで、さらなる利用促進（モーダルシフト）を目指します。



西宮北口駅



正雀工場

➤ 働きやすい職場環境の整備

鉄道事業を持続的に運営していくためには、それを支える従業員が安心して働ける環境の整備が重要であると考えています。休憩室のリニューアルや仮眠室の個室化など、職場環境の改善を通じて、働きやすさの向上を図り、安定的な事業運営を支える人的基盤の強化に取り組みます。

以上